



# 共同通信



2009年2月19日 150(360号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22  
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email : koudou@gamma.ocn.ne.jp  
<http://koudou.jp/> 振替01170-3-4901  
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、  
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、  
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、  
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、  
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

## To tell the story 50 『やさしさのゆくえ』

「ご両親が決めた事だから、とやかく言えないですけどね。石川さんの口からそんなことを聞くとはい思わなかったわ！」それはもう、衝撃でした。妻は泣き出してしまい、営業馴れた私も返す言葉も無く…。あれは昨年の上旬、もうすぐ桜の咲く頃。卒園児の宝箱で一杯のアートガレーチでの出来事でした。西宮北口の住居は、結婚以来10年住んでおり、我が子が2人生まれ成長するにつれ手狭と感じつつあった我々夫婦は、不動産屋さんをぼつぼつと廻っており、これという物件を見つけたのです。長女は卒園、次女はぼつぼさんから年少へ上がるタイミングで、家族の諸事情を考えれば、今しかないとの思いでした。でも、その

物件の所在は王子公園だったのです。いざ、契約の朝、かねてから園長先生と順子先生には説明しておかなければ、とっていた私たちは、不動産屋さんに行く直前に園を訪ねました。長女・次女にも説明を尽くし、解る範囲で理解を得たつもりでいました。その時は次女を転園させる覚悟だったのです。「教会学校へ週一ならまだしも、毎日王子公園から通わせるのは、現実的に無理やで。もう後戻り出来へんぞ。」何度も妻と話をしました。その上での、順子先生からのお言葉。その次の言葉がもっと衝撃でした。「転勤で東京とかに行ってしまうのなら諦めもつくけど、中途半端に遠いと後々後悔するわよ。」私は、あっ！と心の中で叫びました。う 1

わー、その通りや、、、。その後の話はご覧の通りです。あれからほぼ一年、馬鹿な親だなあとと思われるかもしれませんが、王子公園から電車に乗って通園しています。次女も、最近ではうんてい・のぼりぼう・なわとび...。この小さな体でどこからそんなパワーが出てくるのだろうと思うくらい頑張っていました。今ではグリコを自ら並べ嬉しそうに眺めていますし、何を思ったのか急にけんだまを始めています。転園していればそんな感動も味わうことも無かっただろうし、親の判断でそのような機会を次女から奪うかも知れなかったのです。心のどこかにあった迷いを、順子先生が察し、解きほぐし、導いて下さったのです。本当に救われました。なぜあの時そんなことを考えたのだろうと、今でも思います。妻に聞きました。「通園はしんどいか?」「しんどくないと言えば嘘になるけど、それ以上に得る物はあると...。子どもも母も...。」という返事でした。通園ほか、妻に任せきりで、私自身反省すべき点は多分にあるのですが、今の状況に不思議と違和感は無くなっています。それもこれも何よりも、園の先生方や妻の周りのみなさまの支えあってのことです。ご迷惑をおかけしておりますが、とても感謝しております。通いたくても通えない子どもだっているじゃないかと思うと、この共同幼稚園に通える

こと自体がとても幸せなことなんだなあとつくづく思う今日この頃です。また、園の活動を通して我々夫婦も子どもと共に成長していますし、以前にも増して園に魅力を感じています。

原稿を書きながら思い出したのですが、私にも似たような原体験がありました。小学校2年生の時に転居し、校区が変わりました。隣の小学校区のだ真ん中に引っ越しをして、なぜか前の小学校にずっと通いつけたのです。今で言う、越境通学です。毎朝違う方向へ歩いて行く小学校2年生の私を見て、近所の人からは「なぜ、転校しないの?」と言われ、拳句の果てには、先生からも「おまえ、転校しないのか?」と言われる始末でした。それは、私には小児喘息の持病があり、それを考えての言葉だったかと思います。愛媛の田舎だったので校区は広く、子どもの足で片道約1時間歩きました。雨の日も風の日も、暑い日も寒い日も。友達と別れて1人で歩く道のりは、とても長かったのを覚えています。でも、理由は単純で、私はその小学校が大好きだったのです。片道1時間も歩けば、体力がつかます。小児喘息はいつの間にか治っていました。今では、許されるはずもない出来事。およそ30年前の話ですが、その頃にはそんな<やさしさ>がありました。今の共同幼稚園にはもっと奥深い<やさしさ>

があるように思います。それは、多様性を許容し包み込む優しさです。今の社会は少しでも規格から外れていれば、排除しようとする見えない力が働く社会に思えてなりません。とても閉塞感を覚えます。しかも、親も子どもも認識出来ないように体良く分断されているように思えてなりません。分断されている社会の中では、強者・弱者がわかりづらくなります。そのような社会の中では、とても共生するというような感覚は生まれてきません。日々の園の活動の素晴らしさに加え、それ以上に、園長先生と順子先生にはそんな社会の傾向とプレッシャーに対峙しながら、多様性を許容し、永年に渡って維持し続けておられるところに、私はその活動の真髄を感じます。もちろん、先生方や教会関係者の方々、母たちの並々ならぬご尽力があることも確かです。お世辞ではありません。人は他者との関わりなしには生きていけないと思います。よりよい他者との関わりを子どもたちだけではなく、我々にも教えてくれようとしているのです。

私は学生時代に、こども会活動や在宅介護支援のボランティアをしていました。こども会活動は、今でいう学童保育みたいなものでしょうか。在宅介護支援は、24時間要介護者の在宅支援と、ご家族で暮らす要介護夫婦の補助とそのご夫婦の子供の

相手をするものでした。今思えば、きれい事ばかりではありません。こども会活動では、簡単なボランティア保険に入っているだけで、学生の身分で長時間子どもを預かり、今の社会的リスクを考えれば、ぞっとします。何かあっても責任を負えないからです。在宅介護支援も、知識もないのに偉そうによくやっていたなぁと思います。会社を辞め、専門学校通い、介護福祉士の資格を取り、知識と経験を積もうとした妻の方が、よっぽど筋が通っています。私は偽善者か？自問したこともありましたが、その頃の私にとっては、それが<正義>でした。

悲しい後日談もあります。こども会活動によく参加してくれて、OBになっても手伝ってくれていた当時中学生のH君という青年がいました。毎週、私たち学生よりも顔を出してくれていました。私が卒業する時には、彼も高校生。彼も社会人となり働いていると後輩からは聞いていました。私も彼のことはすっかり忘れていたのです。でもある日、その後輩から電話が掛ってきて、彼が自殺したと言うのです。いつの間にか人生を狂わし、自ら命を絶ったと言うのです。その場所は、毎年こども会で行くキャンプ場でした。後輩は言っていました。彼の実家を訪ねたとき、遺品はこども会の思い出の品々ばかりだったそうです。今思えば、うまく社会や仕

事に馴染めなかった彼の居場所はこども会活動にしかなかったのです。そこに行けば自分は認められている。でも学生が自分より年下が多くなった頃、社会に羽ばたこうと決心したのでしょうか。顔も出しにくいでしょう、あまり来なくなったそうです。学生は4年サイクルで入れ替わります。でも彼は人生の課題としてこども会活動と向き合っていたのです。私は無責任でした。どうして彼の置かれている状況がわからなかったのだろう、どうして彼にもう少し社会への関わり方を伝えてあげられなかったのだろうと…。今更ながら悔やんでいます。また、24時間要介護者のMさん。伊豆の温泉旅行に行ったとき、私と同じようなボランティアが入浴介助の際に手を滑らしてしまい頭から落ちました。そして、数日間の昏睡の後に亡くなりました。それも、私が卒業してからの話です。施設から家出同然でとび出してきたMさん。家族からも見放され、でも自由な一人暮らしがしたいと、Mさんは願っていたのです。あの頃のMさんは生き生きとしているように見えたのですが、本当に幸せな人生だったのだろうか、と今でも思い出す時があります。私のしてきたことは何だったのだろうか？そんな若いころの経験が、私に対し、園長先生や順子先生の活動に一種の憧れを抱かせ、想いを重ねさせています。

もちろん、悲しい後日談ばかりではありません。学生への憧れを目標にかえ、見事教職に就いた子どももいますし、保育士になった子どももいます。その頃の子ども達の笑顔、要介護者のみなさんの笑顔を私は今でも忘れられません。大人になり、家族を持った私が、共同幼稚園の活動を通じ世の中の＜やさしさのゆくえ＞を見ているような気にもなるのです。心惹かれ、何か自分に出来る事は無いかと思うようになったのも、自然の流れでした。

今の、父たちは如何お過ごしでしょうか？妻を想い、我が子を導き、仕事を通じ社会の基軸となる生産活動・サービス活動を担い、日々重責を果たされている事と存じます。会社関係・友人・趣味など複雑な属性を抱え、それぞれの価値観で他者と関わっておられるかと存じます。もう仕事と家族を守る事でいっぱいいっぱいという心の叫びも聞こえてきます。そこであえて申しあげるのですが、一步退いてもうひとつ引き出しを作ってみてはと思うのです。共同幼稚園には父たちの集まりがあります。そこには、様々な価値観が存在し、異業種交流も良い刺激となっています。押しつけがましく聞こえてしまったら申し訳ございません。共同幼稚園というフィルターを通して、今まで自分が気付かなかった様々なものが見えてきます。我が子が見え

ているのか？妻が見えているのか？仕事が見えているのか？日本が見えているのか？世界が見えているのか？社会が見えているのか…。私も見えていないものがたくさんあります。〈やさしさのゆくえ〉もその一つなんだろうなあ…。型にはまった集まりではありません。「子どもの笑顔のために」という集まりで、それぞれがそれぞれの価値観で出来る時間に出来ることをする集まりです。今しか出来ない事でもあります。変な勧誘ではありません。気の向くままに…。まずは園長先生と順子先生の楽しい？話をじっくり聞いてみては…。園長先生とお話をしていると、本当に楽しいのです。数えきれない程の人生経験の引き出しがあり、話は尽きないのです。今度はイスラエルとパレスチナの話でもしてみよっかなあ…。その続きは「えるえる」で

…。おっとまた妻に叱られそうです。お茶だけでもいいですよ。まだ解説を忘れておりました。〈やさしさのゆくえ〉とは、それ以外では遊び呆けていた私の学生時代に書いた卒業論文のテーマでした…。

（石川 信夫）

一生は終わってしまえばセツとされて  
次のまっさらなところからやり直せるとらぶらに  
いつの頃からかこの国では誤解されているかも知れないとお思  
いになりますか。  
まるでバブル期にさんざん見せられた地獄に遭った更地と  
その後を覆って建つビル群に習うかのように。  
そしてゲームに習うかのように。  
実は何もリセットなんかされなかったのかも知れないと  
お思いになりますか。  
今生で為した事の全部次の生へと連なってゆくのかも知れないと。  
(中島みゆき)

イエスが行く先々で、たくさんの  
“ 群衆 ” の集まってきた様子が、聖書  
には書かれています。「・・・イエス  
は弟子たちと共に海べに退かれたが、  
ガリラヤからきたおびたしい群衆  
がついて行った」(マルコによる福音  
書 3 章 7 節)、「ユダヤから、エルサ  
レムから、イドマヤから、ヨルダン  
の向こうから、ツロ、シドンのあた  
りからも、おびたしい群衆が、そ  
のなさっていることを聞いて、みも  
とにきた」(同、3 章 8 節)、「イエス  
が家にはいられると、群衆がまた集  
まってきたので」(同、3 章 19、2  
0 節)、「イエスにはまたも、海べで  
教えはじめられた。おびたしい群  
衆がみもとい集まったので」(同、4  
章 1 節) など。

そうやって、群衆が集まってくる  
ことになった理由について、3 章 7  
節で “ そのなさっていることを聞いて ” と書かれています。その場合の  
6 “ そのなさっていることを聞いて ” に

については「ところが、シモンのしゅ  
うとめが熱病で床についたので、  
人々はさっそく、そのことをイエス  
に知らせた。イエスは近寄り、その  
手をとって起こされると、熱が引き、  
女は彼らをもてなした」と(1 章 2  
9、30 節)。群衆が集まってくるこ  
とになった理由は、イエスの “ なさっ  
ていること ”、たとえばシモンのしゅ  
うとめの場合だったら、熱病が “ そ  
の手をとって起こされると熱が引い  
た ” ような、病気の治癒でした。そ  
れらのことを聞きつけて、同じよう  
に病気の治癒を期待した人たちが集  
まったのが、こうして書かれている  
場合の “ 群衆 ” でした。中には、そ  
んな事のそんな人たちのことを追っ  
かけるだけの人たちもいて、“ 大勢の  
群衆 ” になったりもしました。

そうして集まることになった群衆  
の期待に応え、更に病気の治癒をす  
ることもありましたが、イエスのも  
う一つの働きは “ 教える ” というこ

とでした。「・・・イエスは御言葉を彼らに語っておられた」の“御言葉”は、4章では「イエスはまた、海で教えはじめられた」「イエスは譬で多くのことを教えられたが、その教えの中で・・・」(1、2節)と、治癒と並んで、“教える”ということが強調されます。“なさっていること”の、更に別の病気の治癒を期待する群衆に、そのまま応えるのではなく、イエスは“教える”のです。

何を教える必要があって、何を群衆に教えていたのか。このことを問うと同時に、言われるところの群衆とイエスとの距離は遠くありませんでした。たとえば、イエスの“弟子”になった人たちは、イエスから、時として自分たちから群衆を遠ざけようとしますが、そのことでイエスによってたしなめられたりします。「ところが、はや時もおそくなったので、弟子たちはイエスのもとにきて言った、『ここは寂しい所でもあり、もう時もおそくなりました。みんなを解散させ、めいめいで何か食べる物を買いに、まわりの部落や村々へ行かせてください』。イエスは答えて言われた、『あなたがたの手で食物をやりなさい』」(マルコによる福音書6章35節、36節)。

で、群衆に何を教えていたのか。マルコによる福音書4章では、種まきが種をまきに出て行って、その種を“道ばた”“石地”“いばらの中”にま

いてしまったのが、いずれも実を結ばなかったこと、しかし『ほかの種は良い地に落ちた。そして、育って、ますます実を結び、30倍、60倍、百倍にもなった』。そして言われた、『聞く耳のある者は聞くがよい』」だったりすることが、この場合の“教える”になります(3節~9節)。この譬は“教える”ということにしては解り易いというか、あたりまえすぎる内容です。そうなのですが、イエスの周囲に集まることになった群衆には、これも必要な教えだったようです。6章35~36節の場合、イエスの周囲に集まった群衆が、遅くなってしまうのに食べるものがないことに気付きます。明らかなのは、病気の治癒のことを聞いて集まってしまった人たちは、普通の意味での判断がなかなかできませんでした。ユダヤ教の指導者や、そこを統治するローマにとって“生かしもせず、殺しもせず”、“病気を治癒する”といううわさで、すべてを投げ出して追っかけをしてしまう、まさしく群衆こそが好ましい存在でした。そんな群衆に対するイエスの教えは、ありふれたあたりまえのこと、例えば4章1~9節の“種まき”の譬だったりします。病気の治癒のうわさを聞けば、すべてを投げ出して追っかけてしまう群衆に、その真っ只中にいて、あたりまえのことをあたりまえの生き方を示すのが、“種まき”の 7

譬のように読めます。強いられた貧しさを“生かしもせず、殺しもせず”生きさせられる人たちを、目覚めさせるのは解りやすい譬なのです。生きるっていうことは、小さいこと、ささやかなことの積み重ねでしかあり得ないという意味でも。たったそれだけのことが、“生かしもせず、殺しもせず”、群衆をあやつっていた人たちには脅威であったかもしれません。

(菅澤 邦明)

## たこあげ・節分・おもちつき～ 盛りだくさんの毎日です！

立春が過ぎて、暦の上ではもう春になりましたが、やっぱりまだまだ寒い日が続きますね。寒い～と、体がついつい縮まってしまうけれど、時々暖かなお日様の光に嬉しくなったり、梅の花が咲いていたり、コブシのつぼみが大きくなっていく様子を子どもたちと楽しみながら毎日を過ごしています。幼稚園の畑のチューリップもつんつんと、小さな芽を出しています。1月も終わって2月ももう半ば・・・早いですね。どんどん過ぎていく中、今年も先日、幼稚園ではたこあげ・節分・もちつきを楽しむことが出来ました。

たこあげは毎年近くを流れる武庫川の河川敷で行われます。前日も雨

で、天気予報でも雨だったにも関わらず、曇り空ではありましたが、みんなの凧が空高く揚がりました。クラスカラーのビニール袋にそれぞれ絵を描きます。それに竹ひごをつけて完成！の凧が、すごくよく揚がるんです。いつの間にか子どもたちよりもお家の方が方が夢中になっていたり、『初めて凧揚げしました！』なんて方もいらっしゃって、そんな時間を共に過ごす事ができて嬉しかったです。“たこあげ”が、ただ、凧を揚げるだけじゃない大切な一日なんだと、改めて感じたりもしました。凧を引っ張りながら、風を感じる、たこたこあがれ～と聞こえてきたり、また、役員のお母さんたち

も準備して下さった“公同なべ”もみんなで味わって、心も体も温まる、そんなとてもいい一日になりました。

そして次は節分です。この日は豆こそまきませんでした。今年もオニがやってきて一緒に遊びました。そして節分といえば・・・巻き寿司です。ぼっぼ組は巻いていただいた細巻きを、さんぼ・らった・年長組みは“まきす”を持ってきて、自分で巻くことも楽しみました。今年の恵方の東北東を向いてかぶりつきました。しかも“おしゃべりしない”の約束の通り！何も話さずに食べきると、今年1年、元気でいられると聞いて、ほんとに静か、だけど、『おいしいね～』『おかわり～』と、ささやくような声で言ったり～。そんな姿を見ながら今年もみんなが元気いっぱい過ごしていけますように・・・。そう願わずにはいられませんでした。

よいしょー！！よいしょー！！と、園庭に元気いっぱいの大きな声が響いたのが、もちつきです。子どもたちの前には石臼が二つ、みんなの掛け声にあわせてそれぞれの臼に杵が振り下ろされ、目の前でおもちがどんどんつきあがっていきます。この日はお母さんたちだけでなく、たくさんのお父さんたちもお手伝いで参加していただきました。杵を振り下ろすお父さん、おもちを返

すお母さん、そしてつきあがったおもちは、どんどん一口サイズに丸められ、みんなのお腹の中へと入っていきました。蒸しあがったもち米のいい匂いに、『ごはんのにおいがする！』『おもちってごはんなの？』と、感激したり、驚いたりした子どもたちでした。年長組の子どもたちは、小さな杵を持って、実際におもちをつきました。それを見ながら、よいしょー！と体を前後に揺らし、気持ちは自分たちも！の、さんぼ・らった組、となりの仲間とねんにいちどの～と、わらべうたでもちをついているぼっぼ組の子どもたちでした。午後からは一般の部、教会学校子どもたちも一緒について、来て下さったたくさんの方々で楽しむことができたことを感謝いたします。

昔はよく見られたような風景、たこあげをする子どもがいたり、おもちを杵と臼を使って、もち米がどんどんおもちになっていくのを目にする、そんな光景を見る機会も少なくなってきました。けれど、日本の大切にしていきたい行事だったりします。子どもも大人も本気で楽しみながら、こんな風に伝えていく、伝わっていくんだと思うと、本物を目にして、本物を体験する、そんな喜びも大切にしていきたいことが出来たらと、思いました。たこあげ・節分・もちつき・・・公同のイベントには 9

いつもたくさんの方々が参加してくださいます。そしてたくさんの協力も。子どもたちの過ごす毎日を豊かにと、いつも心を寄せて下さることに深く感謝いたします。いつも本気で全力で楽しむ子どもたちがいて、それに負けないくらい本気になって下さる、そんな大人の皆さんの思いに毎日が守られているんだと、改めて感じました。そんな思いをこれからもみんながずっとずっと感じながら過ごしていけますように・・・。

どんどん過ぎていく毎日、1月は行く、2月は逃げる、3月は去る、そう言われるほど日々あっという間です。子どもたちとの毎日はもちろんですが、そんな皆さんとの毎日も大切に・・・そう心に留めて過ごしていけたら、と思います。

暖かな春の訪れを心待ちにしながら、小さな春との出会いを楽しみな

がら、一人でも多くの皆さんが健康で笑顔ですごしていけますように・・・。

(石堂 寛子)

## すずや便り

先日、「すずや」ってなに？とご質問をいただきました。今住んでいるところの地名なのです。鈴に谷、音が聞こえてきそうなきれいな名前です。鈴が名産品なのかな？とも思いましたが、そんなに単純ではありませんでした(笑)。七福神が有名だそうです、お正月には七福神巡りツアーまで来ていました。まだ、2箇所しか行って

10 いないのでちゃんと巡ってみたいで

す。(もう少し暖かくなってから・・・)

さて、世の中はバーゲン真っ盛り！「お母さん～」と私に呼びかけた娘を見ていた店員さんから「え～ご姉妹じゃないんですか！びっくり～。お母さん若いですね！！」と、怒涛の口撃。いやいや驚きました。よくテレビで「姉と呼ばれたい母」などやっていますが、まさか自分がそんな風に見られるとは。確かに、背格好は似て

いるし、その日は帽子をかぶっていましたが、そんなに若作りしているつもりもないしな～と、初めは流していたつもりが、だんだん頬は緩み、乗せられてついには試着室へ。

結局購入はしませんでした。お世辞と分かっているけど若く見られるってこんなに嬉しいものなのか～と、発見でした。で、この原稿を書きながらもなぜか、にやけてしまう自分が怖い(汗)。決して自慢話じゃないですよ！！

少し前に独身時代からの友人と10年以上振りに会った時のこと。第

一声は「久しぶり～変わってないね！」。途中で「少し感じが変わったかも」。

お互いを褒めあっている(おばちゃんですね)中での一言なのですが、外見変わらなくて(そんな訳ないけど)、中身が変わってるなんていいんじゃない～充実した10年だったんだわ、と前向き思考で喜んでいきます。今年は何にもしばらく振りの再会が目白押し。今までにない緊張感で、「ストップおばちゃん化」になるかな？

(富家 香麻里)

## みかん便り•@

2月も中旬になってもうすぐ新しい春が近づいてきました。テストも無事終わり、今はのんびり期間です

テスト期間の2週間は毎日朝5時まで勉強とかレポートで大変やった。。テスト勉強で4kg痩せましたから(笑)2月といえばバレンタインデーです。ちなみに2月14日は僕の誕生日でもあるわけで。。毎年この日もらうものは、バレンタインなのか誕生日プレゼントなのかがわかりません。しかも今年は逆チョコブームって事で俺が友達に逆チョコプレゼントせなあかん事になってしまいました。なんで自分の誕生日に人にプレゼントを贈らなあかんのか謎でたまりません(苦笑)ってなわけで誕生日は昼は自動車教習所で、夜は友達と飯食いに行くことに決まりました。今年の誕生日、昼間はいつもと変わらない毎日ですが、最後は友達と楽しく過ごして終われてよかったです。来年はどんな1日になるか楽しみです

で、大学生活ですが、1月に入って友達が急増しました(笑)毎日がホンマに楽しかったです。春休みは卒業したての高校3年生が教習所にこた返すんで、早めに京都に帰らないと春に免許が取れなくて...愛媛の友達ともっと春に遊びたかった(ノ ;)

12 春に帰ったらいっぱい遊ぼうって毎

日メールが来ます。せやから、なんかここ最近毎日が幸せなんですよ。

成人式まであと1年。最近昔のことを良く思い出します。高校時代は大人が大嫌いでした。2年のときは担任に毎日突っかかかっていて取っ組み合いのケンカをしたぐらい(笑)高校時代の口癖は、「うちの高校、無駄な大人が多すぎる。」です(笑)生徒には怒るくせに、校長が同じ行動をしても怒らない。生徒に対して無関心で、金儲けしか考えてない教師が多くいました。なので、大人になるのが嫌でたまらなかったです。学校を辞めた親友とよく担任の不満を言い合っていました。でも、最近早く大人になりたいと感じてきています。

小学校6年生のとき、大好きな担任の先生がいました。破天荒なおばちゃん、お酒が大好きな「大阪のおばちゃん」って感じの人でした。中学時代、家が問題であふれかえったとき1番の相談相手がこの先生でした。いつもこの先生と話すときはタメ口で、尊敬の眼差しを浴びせたことはありません。でも本当は今でもこの先生には頭が上がりません。中学に入っても、中学と連携を取って、影ながら僕たちのことを見ていてくれていたらしいです。今でも仲のいい、僕の人生の目標です。

高校時代、いい先生が1人いまし

た。学校で1番恐れられている永井先生です。黒豹みたいな目をした1年のときの担任でした。僕のクラスは3年間クラス替えがありません。2年で担任が変わり僕筆頭にクラスは荒れていき、3年でまたこの先生が帰ってきました。(苦笑) 始業式での担任発表時、クラス全員がで「ええ〜...」って声をそろえて大きなため息を漏らすほど恐怖の先生です。とても頼りにはなるのですが、関わりにくく、今でも高校に遊びに行つてこの先生を見つけると隠れてしまいます(笑) 卒業式の前日、違う先生からこんな話をしてもらいました。「お前らは2年生のときに毎日他の先生方を困らせてたことは知ってるやろ？ 毎日のお前たちのことは会議にかけられてたんや。そんなとき永井先生だけは『あいつらはホントはいい子なんです。来年もう1度僕に指導させてください。いい子達なんです』って言うてくれてたんやで。いつかはこういう大人になれよ。」と話してくれました。

他にも優しい大人は僕の周りにいっぱいいてくれたんだと思います。でも、今思い浮かぶのはこの2人だけです。人に信頼される人って言うのは、知らないところで行動してくれる人なんだと僕は思っています。

大学2回生になるのが近づいてきて、大人になる日も近づいてきました。たまに「俺は汚い大人になるな

ら1秒でも子供のままでいたい」って言う人を聞きます。僕も前まではそうでした。それが間違いだとは言いませんが、今の僕は大人になりたいです。何年か先でいいんで、「あの人いい人やったなあ。優しい人やったなあ。」って改めて思ってもらえるような大人になりたいです。子供に対して、周りの仲間に対して、いい学びの対象になるような人になりたいです。それにはまず大人にならななあって最近思ってきたんですよ。京都にいるうちに、この2人の先生にまた会いに行くつもりです。学ぶ事って楽しいですよ。勉強にしろ、人間関係にしろ、もっといろんなことを学びたい。ってなわけで、残り大学生活3年！！もっといっぱい経験して人に信頼される大人に成長していきたいです 以上(ノ^ ^)ノ .+.:。

(河村 高志)

2009年2月 あんなこと こんなこと...

## 教会学校から

### 《1月の活動報告》

1月11日(土)

新年カルタ大会

幼稚園と教会学校の子どもたちが一緒になって遊びました。対抗戦では子どもたちも大人たちも本気になってカルタを奪い合うのでした。

1月18日(日)

兵庫県南部大地震犠牲者追悼の日礼拝

(合同)

1月25日(日)

たこつくり

毎年恒例のたこあげ大会に向けて、子どもたちがそれぞれ自分のたこをつくりました。今年のたこは特別の“しっぽ”付きでした。

1月31日(土)

たこあげ大会

2月7日(土)

もちつき

### 《2月の活動予定》

2月1日(日)

ゲーム遊び

2月8日(日)

冬の遊び&お雑煮を食べる

2月15日(日)

幼稚園の子どもたちと“3000個”積み木大会

封筒で届いた秘密の“指令”のもとに、幼稚園チームと教会学校チームが積み木の高さや数と美しさを競い合いました。結果は・・・引き分け！

2月22日(日)

のびーるのお父さんに遊んでもらう

# 大切な贈り物・津門川 77

“津門川徒然なるままに”

川掃除に参加して4年(5年?)がたちます。毎回川に入るといろいろとを感じるものがあります。今回はその一部をご報告。

## その1:ゴミの種類

吸殻・ビニル袋、空き缶は常連ですが、中にはこんなものもあります。雨傘、衣類、自転車、鍵、さいふ、某電鉄の回数券(大抵使い切り)、クレジットカード・免許証、ビデオテープ・CD。前回は100円玉2個(当然園長に献金しました)。ある時は手のひら大のちくわの包装フィルム。それも特定メーカーだけのすごい枚数。いったいどうなっているのか?一度拾ったゴミの仕分けを行い、レポートを作って見るのも面白いかも。こどもの自由研究にどなたかいかが?でも、一番厄介なのが、割れたガラス瓶の破片。この前も踏んでしまい、長靴を突き破って刺さってしまいました。川掃除も結構大変なのです。

## その2:川の様子

意外にも調べると、171号線まで約800m!!長靴はいて川の中を歩くのは結構ハードです。復路も然り。一日1.6kmを歩く事になります。何回も同じルートをたどれば、

大体川の様子も分かってきます。(川筋が読めてきた)水面が穏やかなところは必ず深い。さらに上流に向かって、左側が確実に浅い(どういうわけか)。お世辞にもきれいとは言えないが、こんな街中でも浅いところではせせらぎを聞くことができる。(目を閉じて耳を澄ませば溪谷に来たような気分です。一度お試しあれ。なかなかおつなものです。)

## その3:思わぬ拾い物

あまり教えたくないのですが、最近はじめたのが、碇子(がいし)探し。若い方は知らないかもしれませんが、電線を絶縁するために用いる磁器製の器具。古い住宅で良く使われているのですが、結構手ごろなサイズで気に入っています。必ずと言っていい程、川底が砂地になっているところに半分顔を出した状態で、埋まっています。なぜ、川の中にあるのか分かりませんが、これまで、4個見つけました。見つけた時は結構うれしくなります。(見る人によっては、単なるガラクタですが。これってオタク?)

## その4:たのしいこと

12:00からスタートして、大体

12:45には終了、その後は、お食事タイムです。おとなにはうれしいおまけつきです。皆ほろ酔い気分で会話が弾みます。時にはサプライズなおつまみを戴ける事があります。

#### その5：そしてうれしいこと

教会学校の子どもたちが手伝ってくれること。地上からのサポート部隊ですが、町内会の方々に手伝ってもらいながら、ゴミかごを引き上げてくれます。世代を超えたコミュニケーションを行いながら、少しでも身近に「環境」を考えてくれたら、といつも思っています。

#### その6：最後にひとこと

月に1回ですが、皆さん親子で一度参加してみてもイカガデスカ？お待ちしております。

(のびーるの会：らくがん高島)

### 川掃除のご案内

毎月第1日曜(雨天の場合は翌週の日曜日)に西北(教会、幼稚園前を流れる)津門川の川掃除を行なっています。

参加する方は午後12時過ぎに教会前に集まり、長靴をはいて川の中に入って掃除をするグループと、ゴミを運ぶグループに分かれて掃除を始めます。教会前から南に下っていったあたりからスタートし、171号線にぶつかるところまでが範囲です。掃除が終わったら幼稚園園庭に戻り、にしきた商店街が用意する簡単な昼食をみんなで食べて、川掃除スタンプカードのハンコを1個押して終了です。スタンプカードは5つポイントがたまると、にしきた商店街で使える金券1000円と交換されます。

**次回の川掃除は3月1日です。**

## まいのなんでも案内

(注：今月は高橋マイ多忙につき、村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』の登場人物、笠原メイが代筆しています。来月からは元に戻りますので、今回だけお楽しみください。)

こんにちは、ねじまき鳥さん。

あなたがねじまき鳥さんじゃないことはよおおく分かってるんだけど、どうやら私はねじまき鳥さんに手紙を書くようにしないと、文章がうまく書けないみたいだから、そういうことにします。

もうかれこれ4年ぐらい、こうやって手紙を書こう書こうと思いつけてきたんだけど、いつもうまくいかなかったのね。大抵はシャワーを浴びてるときに思いついて、ちゃんと書くことも決めてすっかり満足してお風呂をあがって、いざ書くぞとパソコンに向かった途端に、頭の中にあった文章が丸ごとそっくりなくなっちゃうの。ひょっとしたら石鹸やら何やらと一緒に風呂に忘れてきたんじゃないかと思うくらいに、そっくり。書き出しやら端っこやらも全く思い出せないなんて、普通ないわよ。書き始めて途中で詰まるとか、書きたいことは覚えてるけど始めを忘れちゃったとか、そんなのはよくあるけど、どうしてだか、ねじまき鳥さんへの手紙だけは、丸ごと全

部なくなっちゃうの。いつも。タチの悪いモウソウみたいよね。だからもう最近はお風呂で思いついても、無視することにしたの。私だって年がら年中、そんなモウソウみたいなものに振り回されてるほど暇じゃないんだから、真面目に相手するだけ馬鹿みたいじゃない。ふん。でもね、今日、シャツにアイロンをかけてたら(見かけによらず手仕事は器用だって言ったでしょう)、そういえばねじまき鳥さんは、混乱するとアイロンをかける人だったなあ、ってはっと思い出しました。そうしたら何だか今度はねじまき鳥さんに手紙が書きたくて仕方なくなって、えいやっとアイロンがけを終わらせて、パソコンでぱちぱちとこの手紙を打つことにしたのです。

それで思い出したんだけど、私、だいぶ前(2007年12月)に、村上春樹作品の紹介をしたんだけど、長編の紹介だけで終わってたのね。ずいぶん話だと思うわよ。「来月は短編や、企画モノについてももう少し紹介したいと思います。」なんて、ばっちり書きちゃってるのに、次の月はそんなの全く忘れて「私の日常をもっと皆に知ってほしいの!!」とか書いてるんだもん、もう自分でも読み返してびっくりしちゃったわよ。お

いおい笠原メイ、2007年12月と2008年1月の間に君に一体何が起こったんだ？ってね。だから、もうそんなの覚えてる人はいないかもしれないけど、一応そういうのはちゃんとしとくべきだと思うから、今からちょっとだけ、その続きっぽいものを書きます。

とりあえず、村上さんは短編集も結構出して、短編の方が好きって人もいるわよね。短編で使われてる人とかモチーフとかが、そっくりそのまま長編に使われてることもあるし、村上さんらしさがギョウシュクされてるみたい。私が一番好きなのは、短編ですらない、超短編集の『夜のくもざる』って本。何かの広告のために書かれた、2ページぐらいの小説と、それに合わせた安西水丸さんの絵をまとめてあるんだけど、どのお話も馬鹿らしくてわけが分かんなくて、ケラケラって笑えちゃう感じなの。絵も関係あるんだかないんだかって感じでクセになるわよね。話は全然つながってないし、どこから読んでもどれを読んでも問題ないから、疲れたときなんか本棚から手に取ってぱっと開いたところを読んで、息抜きするっていうのをすすめるわ。私が出てくる話もあるしね（間違い電話は申し訳なかったと思うけど、あの蟻の巣の移動はものすごおおく気持ち悪かったのよ！）。そうね、「村上朝日堂長短篇小説」っ

てタイトルなだけあって、小説っていうよりエッセイに近いのかも。村上朝日堂っていうのは元々村上さんのエッセイ集だから。村上春樹の長編小説はどうも気取ってるよな、ふん、って思ってるような人でも、この本ならとっつきやすいんじゃないかしら。「ドーナツ化」とか「アンチテーゼ」とか「もしよもしよ」とか、妙に頭に残る言葉がいっぱいあるし。『またたび浴びたタマ』（回文集）とか『うさぎおいしーフランス人』（かるた）とか、村上さんは他にも馬鹿みたいな本をいっぱい出してるから、気に入ったらそっちも読むといいんじゃないかな。私は持ってないけど。

書き始めると案外さらっと書けたので安心してます。これでもうお風呂に入っても、あのモウソウみたいなものがやって来ないようにできればいいんだけど。じゃあさよなら。

（笠原　メイ）

## つとがわ 編集後記

昨日（2月16日）の午後、「高齢者が問題から祝福にかわる時」という講演を聞きました。高齢者問題を置き去りにするか、見ないことにできない限り、“祝福”にはなりようがないのに、最期は“説教”になってしまった講演に、少しむっとしたりしていました。そして、夕方宝塚の施設で世話になっている父を訪ねました。遅かったので夕食の時間に重なった為、部屋で待つことにしました。30分ほど待って様子を見ると、半分くらい残していました。少しすすめてみましたが、首を横に振るので、“もういいんじゃない”と言ってしまったのが間違いのもとでした。施設で働いておられる職員の、父との付き合いのペースを乱してしまったのです。働いておられる職員にとって、父が残さず食べることが仕事としては完結で、たぶんそのことに責任があるはずです。なのに、たまにしか訪ねてこない家族が“もういいんじゃない”と言って、いわば仕事のじゃまをしたこと、その後の薬の服用の際にも、父が飲もうとしないのを“いいんじゃない”と言ってしまって、担当の職員の気分を害してしまいました。

というような訳で、この日の父（2月9日で88才になった）のことでは、“高齢者が問題から祝福にかわりにくい”という現実を垣間見ることになりました。

（K）

「昨年4倍よ」と、言われました。考えるだけで、想像するだけで怖ろしくなる・・・それは、花粉です。今年はかなり多いそうですね。病院へ行くと、「一昨日からでしょ？」と、先生。まさにくしゃみが出始めた日がピッタリでした。子どもたちの間にも花粉症は広がりがつあるみたいで、病院の診察室から泣き叫ぶ声が聞こえてくると、治療の痛さが伝わってくるようで、その場から逃げてしまいたくなります。この先ずっとお付き合いしなきゃいけないなんてかわいそうです。私の小さい頃なんて“花粉症”なんて言葉も聞かなかったのに、今では花粉症経験者は近畿地方では5割！そんなにもたくさんの方が花粉に悩まされているそうです。

今年は薬だけでなくお茶も飲んで対策をたっています。抗アレルギー効果の成分が入っているというお茶を見つけたんです！その名も『沖縄べにふうき』この名前だけでも惹かれます。効果は如何に！？鼻に栓をしたくなる毎日が来るのかと思うと気分は沈む一方ですが、このお茶も飲みながら、沖縄へ思いも馳せつつ、なんとか乗り

切って 暖かい春を、うららかな陽気を想像してこれからを過ごしたいなぁと思っています。

（I）

母と二人でコンサートへ 徐々に母と二人のおでかけでなんだかとても楽しみにしていました。関学のオーケストラを聴きに行ってきました。初の生オケです！知らない曲目ばかりだったので、タクトがあがって演奏が始まった瞬間ドキドキしてしまいました。生演奏はやっばりいいな～と感じたひとときでした。

（N）

この冬、けん玉にはまっています。今年の目標は「ふりけん」をマスターすること！！毎日家で1時間の猛特訓！！でなんとかできるようになりました。でも、一つマスターしてもまだまだいろんな技があつて。。。奥が深い！！どどんいんな技にチャレンジしたいと思います！

（Y）

公同通信をきちんと早く発行したいと毎月叫んでいます。が、なかなか前月末には、いやせめて上旬中にはと思うものうまくいきません。それでも毎月届くこの通信にここ西宮の息遣いが聞こえてくると楽しみにしていただいているようでその声を聞いたたびにまた叫んでいます。ところで早や2月、今年は園庭のみかんの収穫がいつもより早めに行われました。10月くらいからぼとぼと落ちてきていたみかん、味見してみたらおいしかったのです、早く落ちるのはすっぱかったり青臭かったりするの。そして1月下旬くらいになると皮が固めになり先に落ちたのより味も今ひとつ。それでいつもよりいそいだというわけ。おいしかったし文句を言う筋合いではないけれど、自然の木々は環境に敏感。地球の変化はこういうふうに微妙に微妙に「異常」を知らせてくれているのかも、なんて早く落ちたみかんもどれだけ小さくても事務所で食べながらみんなで話していました。手に付く汁は化粧水、剥いた皮はすべてマーメイドジャム、なんて自慢していたらどうやら種もなんか使えるそうです。

（J）